

2004年3月29日

報道関係各位

ノバルティス ファーマ株式会社

今年も実施。爪白癬」疾患啓発のためのテレビCM

ノバルティス ファーマ株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：通筋雅弘）は、3月29日より、全国81局において「爪白癬」に関する患者啓発活動の一環として、テレビCMを放映します（放映期間：3月29日～4月18日、6月14日～7月4日）。テレビCMは、3月から4月にかけては、スポットで1400GRP放映される予定です。

このCMの目的は、治療法としての内服薬、受診先としての皮膚科専門医、という2点について、患者さんやそのご家族をはじめ広く一般の方々に正しい情報を提供しようというものです。

また、3月30日から、ホームページ「爪Net（<http://www.tsume.net/>）」を、より患者さんに有用な情報を掲載する形でリニューアルいたします。

爪白癬は、カビの一種である真菌が爪に付着・感染しておこる、いわゆる爪の水虫で、爪が白濁したり肥厚する最も一般的な爪の疾患です。国内の潜在患者は年齢・性別を問わず1100万人と推定され、60歳以上では約40%の人がかかっているとされています。しかし痛みやかゆみといった症状がなく疾患という認識がないことから、治療を受けているのは潜在患者の約15%にすぎません。治療法がわからずにそのまま放置しておく、体の別の場所や、家族や周りの人に感染する可能性もあります。爪は皮膚の一部であることから、爪白癬を正しく診断し治療するためには、皮膚科専門医の受診が必要です。

ノバルティス ファーマ（株）では、1997年にアリルアミン系経口抗真菌剤「ラミシール®錠（一般名：塩酸テルビナフィン）」を発売し、1999年より新聞広告や雑誌広告、「爪Net」などで、爪白癬に関する患者啓発活動を展開しています。昨年に引き続きテレビCMを行うことで、より多くの方々が、爪白癬やその治療法などについて正しく理解し、適切な治療を受ける機会が増えるものと期待しています。

【CMの内容】

爪の水虫は塗り薬では十分に患部に届きません。あきらめてほうっておくか、お医者さんの飲み薬で治すか…。家族から選択を迫られた父親が、家族にうつす前に皮膚科を受診するというもの。父親役にはドラマや映画、舞台上で活躍中の俳優・篠田 三郎さん。15秒の1タイプ。

【篠田 三郎さん】

俳優。1965年大映ニューフェイスに合格。「ウルトラマンタロウ」、NHK大河ドラマや朝の連続ドラマ小説「氷色の時」などに出演。近年は「ピュア・ラブ」、「ゴールデンボウル」などのTVドラマの他、映画、舞台等幅広く活動。